



# 風と心

発行 岩手県立胆沢病院  
編集 広報委員会

〒023-0864  
岩手県奥州市水沢区  
字龍ヶ馬場61  
TEL 0197-24-4121  
FAX 0197-24-8194

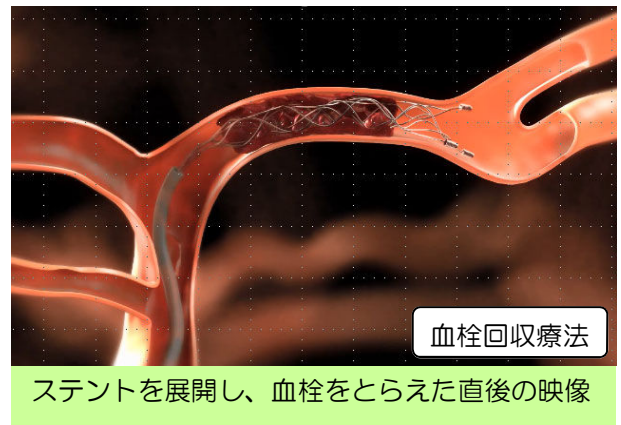
## 治療が変わります 脳血管内治療ってどんなもの 今年は虚血性脳血管病変の治療（血栓回収療法など）の充実をすすめます

### 脳血管内治療について

内視鏡を使った手術が、多くの外科治療の分野で広がっています。脳神経外科でも、その特性を利用し内視鏡を用いた手術を行っています。今回説明します脳血管内治療は内視鏡手術とは全く別の治療です。

内視鏡手術は内視鏡を体内に挿入し病変に到達する経路を、皮膚切開や開頭操作で作らなければなりません。病変の観察は、日常生活で使用する明かりと同じ可視光線を使って行います。

脳血管内治療は、大腿の付け根にある血管に管を挿入して治療しますので、非常に小さな創で済みます。体内の病変や機材の観察には、X線や造影剤を用いた透視を使います。心臓のカテーテル検査や治療を受けたことのある方ならば想像しやすいと思いますが、基本的な原理は心臓のカテーテル治療と同じで、脳の血管病変を治療します。昨年更新された血管撮影装置は、従来の装置よりも低被曝でありながら高画質な画像で病変の観察が可能となってお



血栓回収療法

ステントを展開し、血栓をとらえた直後の映像

り、昨年は脳動脈瘤の治療を行いました。今年には虚血性脳血管病変(脳梗塞)の治療(血栓回収療法、CAS、PTA等)を充実させる準備をしております。特にステント型リトリーバーという機材を用いた血栓回収療法は、発症4.5時間以内の血栓溶解療法で閉塞血管を再開通させられなかった症例を救う治療として有効であることが、最近になり報告されました。県南の近隣医療機関と連携しながら、脳梗塞の超急性期治療を変えていきたいと考えております。よろしくお願い致します。

脳神経外科長 菊池 登志雄

脳血管撮影検査を行う菊池脳神経外科長(右側)



院内各診療科で幅広い用途に活用できる最新鋭の血管撮影装置です

## くすりについて(薬としょうずに付き合っていくために)

知っていましたか どんな薬にも副作用はあります

出前医療講演にお伺いしました

1月21日(木)午後1時30分から胆江広域障害者地域活動支援センター「友とぴあ」を会場に、胆沢病院の出前「医療講演」が行われました。

鈴木敦薬剤師が講師となり、「おくすりについて」と題して行われたこの医療講演に、通所している皆さんや職員約20人が参加しました。



講師の鈴木敦  
薬剤師

今回、障害者のみなさんが社会との交流を促進し、自立した生活を送れるようになることをめざし、障害者総合支援法に基づいて市町村が行う地域生活支援事業の一つとして活動している「友とぴあ」さんにお伺いしたものです。

講師からは、はじめに「薬」は厚生労働大臣の承認を受けたもので、たとえ、効果がありそうなものでも承認がなければ医薬品ではないとの説明がありました。

全ての「くすり」には「リスク」があること。そもそも副作用のない薬は存在しないことから、体調が悪い時に、適切な薬を正しくのむということがとても大切です。

また、薬ののみ合わせにより、副作用が起こることがあります。薬ののみ合わせは、薬どう



しだけでなく、薬と食品との組み合わせなどもあります。他の病院を受診している場合などは、あらかじめ、何を使っているか主治医に相談してほしいと話しています。

参加者からは、講演の途中途中で、「薬ののみ方はどうしたらいいか」、「古い薬は使ってもいいか」、「どのようなのみ合わせがダメなのか」などの質問が出され、講師からは具体例を示しながら説明がされ、大きくうなずく様子がありました。

最後に次のように締めくくっております。

薬を使用する際は、自己判断でのんだり、止めたりしないでください。何か分からないことがあれば、気軽に確認をとってください。正しく使って、生き生きとした生活を！と。

●薬の正しい使い方のためには、いつのむかの用法の意味を知っておくことが大切

- ・食後: 食事の後、30分以内のむ
- ・食前: 食事の前、30分程度にのむ(食直前の場合は食事の前5分以内)
- ・食間: 食事の後、2時間程度開けてからのむ。食事を摂っている最中ではありません
- ・とん服: 食事に関係なく、症状がでたときにのむ

●薬をのみ忘れてしまった場合

次の服用時間が短い場合はのまない。2回分、一度に飲むと効果が出過ぎることがあります。次の服用時間まで間がある場合、服用しても

構いませんが、糖尿病の薬などは、低血糖をおこすこともあるので、確認してください。

●古い薬は使っても大丈夫?

薬が出されたときの症状に合わせて、薬を選んでいきます。昔の薬は使用しないでください。

●薬の保管方法では

誤って、他人がのむことのないように注意してください。子供が身近にいる場合は、特に注意が必要です。

薬は直射日光・高温・多湿を嫌います。涼しい日陰に保管してください。

一部の薬は、冷所保管のため、凍らないよう注意して冷蔵庫などで保管してください。



## 部 署 紹 介



半田医師事務支援室長（右から2人目）、久慈医事経営課長（前列右）と医療クラークのみなさん

## 医師事務支援室 （医療クラーク）

医師事務支援室長（副院長） 半田 政志

同室次長（医事経営課長） 久慈 一広

医師以外でも対応可能な事務的作業を事務職員に分担させることにより、医師の業務負担を軽減し勤務環境の改善を図ることを目的に、当院では平成20年4月以降「医

師事務作業補助者（医療クラーク）」の配置、増員を進めてきました。

現在、27名が各診療科外来に配置され、主に次の業務等に対応しています。

- ・診療記録等（電子カルテ、オーダーリング）の代行入力
- ・診療に関するデータ整理（検査成績表の整理及びスキャン等）
- ・診断書・証明書・主治医意見書等の書類作成補助
- ・退院時要約書の作成補助

これまでの業務対応によって「医師が診療に専念できる時間の増加」「外来診療のスピードアップ」「診断書等の書類作成時間の短縮」など、医師の事務作業の負担軽減が進んだことによる効果に対して院内外から高い評価をいただいています。

今後は、書類作成関係業務の拡充や入院患者に係る各種オーダーなど病棟業務への対応の検討など、さらなる医師の事務負担軽減、診療業務の円滑化に努めていく考えです。



胆沢病院ロゴマーク

## 胆沢病院理念に掲げている「愛」をモチーフに ロゴマークデザインが決まりました

### 制作意図

- ◆上部の「i」は、アルファベットの小文字で i s a w a の「i」を表し、両手を広げている人物を抽象的に表現しています。
- ◆上から両手を差し出している様子は、大切なものを護り、抱える様子をイメージしています。大切に抱えるものは、地域医療を担い、地域・住民そして患者さんを護ることを秘めている「医療人としての心」です。
- ◆両手の中は、胆沢病院理念に掲げている「愛」をモチーフにした「♥マーク」を表現しています。
- ◆色は、奥州市の花である「桜」をイメージし、優しさを醸し出しています。

病院長の発案から始まったデザイン募集に24作品が寄せられ、厳正・公正な審議の結果、上記マークに決定しました（H27.12）。

「タオル帽子に助けられ今度は私も作ることができました

## 医療情報コーナーイベント

# 「タオル帽子をつくろう、ウィッグ展示会」を開催



帽子作りとウィッグ  
展示の一コマ



医療情報コーナーイベントの一環として「タオル帽子をつくろう、ウィッグ展示会」をテーマに12月22日(火)9時30分から玄関ホール内の医療情報コーナーにおいて開催されました。

化学療法等の治療により副作用症状(脱毛)に悩んでいたり不安に感じている患者さんやご家族のみなさん、帽子づくりに興味やボランティアに興味のある方、地域住民を対象に、岩手ホスピスの会の協力を得て開催したものです。この医療情報コーナーイベントに15名の参加がありました。

どこの家庭にもあるタオルを使った帽子の作り方は、岩手ホスピスの会から4人の方に講師をお願いし、参加者は、実際に針と糸を手にとって手軽に作れるタオル帽子に挑戦していました。

参加者からは、「生前の母が抗がん剤治療した時にタオル帽子をいただいて大変ありがたかったので、いつか勉強したいと思っていた。こういう企画をしていただいていたありがとうございました」「タオル帽子に助けられ今度は私も作ることができました。本当にありがとうございました」などの感想が寄せられています。

医療情報コーナーでは、同会のタオル帽子を無料で提供しています。また、タオルの寄贈も随時受け付けておりますので、ご協力をお願いします。

### 皆さまの善意に感謝申し上げます

多くの皆さまから「フェイスタオル」の寄贈をいただいておりますこと、感謝申し上げます。



提供をいただいたこの善意のタオルは、岩手ホスピスの会が中心となって、がんや化学療法等の治療により副作用症状(脱毛)に悩んでいたり不安に感じている患者さんやご家族のみなさんへタオル帽子として無料で提供しております。

引き続き皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。

### <問い合わせ先>

胆沢病院 地域医療福祉連携室

TEL 0197-24-4121

FAX 0197-24-8194